

## 9 消防団概要

昭和38年、五市合併による北九州市の発足に伴い、門司消防団、小倉消防団、若松消防団、八幡消防団、戸畑消防団、洞海湾消防団の6団、89分団2,979人となりました。

昭和49年、北九州市の行政区再編成と併せてスタートした「消防団の近代化計画」により、門司消防団、小倉北消防団、小倉南消防団、若松消防団、八幡東消防団、八幡西消防団、戸畑消防団、洞海湾消防団の8団、8本部、69分団、定員2,030人の体制となり現在に至っています。

### (1) 消防団の現況

#### ア 組織等

門司消防団…1本部…11分団…7支部 八幡東消防団…1本部…7分団…2支部  
 小倉北消防団…1本部…9分団…1支部 八幡西消防団…1本部…12分団…2支部  
 小倉南消防団…1本部…14分団…13支部 戸畑消防団…1本部…5分団  
 若松消防団…1本部…7分団…5支部 洞海湾消防団…1本部…4分団

【第83表】消防団の定員・現員

(令和6年4月1日現在)

区分	消防団	分団	計	消防団長	副団長	分団長	副分団長	部長	班長	団員
計	8	69	2,030 (1,714)	8 (8)	16 (16)	92 (90)	83 (82)	149 (142)	336 (296)	1,346 (1,080)
門司	1	11	338 (297)	1 (1)	2 (2)	14 (13)	13 (14)	24 (24)	56 (50)	228 (193)
小倉北	1	9	244 (169)	1 (1)	2 (2)	12 (11)	11 (10)	20 (17)	42 (29)	156 (99)
小倉南	1	14	452 (401)	1 (1)	2 (2)	17 (17)	16 (15)	30 (28)	74 (69)	312 (269)
若松	1	7	222 (215)	1 (1)	2 (2)	10 (10)	9 (9)	16 (16)	38 (38)	146 (139)
八幡東	1	7	204 (167)	1 (1)	2 (2)	10 (10)	9 (10)	16 (17)	35 (33)	131 (94)
八幡西	1	12	340 (274)	1 (1)	2 (2)	15 (15)	14 (14)	26 (25)	55 (48)	227 (169)
戸畑	1	5	140 (110)	1 (1)	2 (2)	8 (8)	7 (6)	12 (11)	25 (23)	85 (59)
洞海湾	1	4	90 (81)	1 (1)	2 (2)	6 (6)	4 (4)	5 (4)	11 (6)	61 (58)

(注)1 ( )内は、現員

2 定員は、北九州市消防団の組織等に関する規則第4条ただし書きの規定により、臨時に定員及び配置を変更した数

【第84表】消防団員の報酬・費用弁償

(令和6年4月1日現在)

消防団	年額報酬(年/円)								出勤報酬(出勤1日当たり/円)			
	副団長	分団長	副分団長	部長	班長	団員	機関員	機関員補助者	災害	警戒訓練等	7時間45分を超えたら同額加算	
	82,500	69,000	50,500	45,500	37,000	37,000	36,500	20,000	10,000	8,000	5,000	

【第85表】消防団員の年齢

(令和6年4月1日現在)

区 分	平均年齢	計	18歳～ 20歳	21歳～ 25歳	26歳～ 30歳	31歳～ 35歳	36歳～ 40歳	41歳～ 45歳	46歳～ 50歳	51歳～ 55歳	56歳～ 60歳	61歳以上
計	43.9	1,714	52	86	135	150	188	266	289	254	180	114
門 司	43.8	297	12	9	27	32	36	39	53	34	32	23
小倉北	43.2	169	3	14	19	12	13	27	31	20	20	10
小倉南	45.6	401	3	12	24	29	47	70	74	74	48	20
若 松	42.5	215	9	14	17	24	24	30	31	39	17	10
八幡東	43.3	167	16	15	11	8	11	20	26	22	16	22
八幡西	43.9	274	7	14	26	18	32	48	41	41	27	20
戸 畑	43.6	110	2	7	6	11	13	17	22	16	13	3
洞海湾	43.6	81	0	1	5	16	12	15	11	8	7	6

(注)全体の平均年齢は、各消防団の平均年齢から算出

【第86表】消防団員の在職年数

(令和6年4月1日現在)

区 分	平均在職年数	計	5年未満	5年～ 9年	10年～ 14年	15年～ 19年	20年～ 24年	25年～ 29年	30年以上
計	12.6	1,714	400	343	337	241	203	93	97
門 司	13.4	297	62	57	58	50	32	14	24
小倉北	12.4	169	48	32	24	23	21	11	10
小倉南	12.1	401	75	96	94	59	50	13	14
若 松	12.3	215	55	42	46	21	27	11	13
八幡東	12.1	167	49	28	29	16	26	11	8
八幡西	12.6	274	73	55	44	32	30	21	19
戸 畑	12.9	110	19	19	24	26	11	8	3
洞海湾	13.0	81	19	14	18	14	6	4	6

(注)全体の平均在職年数は、各消防団の平均在職年数から算出

イ 施設・機材等

【第87表】消防団施設

(令和6年4月1日現在)

項 目	分 団 本 部	分 団 支 部
施 設 数	65箇所	30箇所
敷地面積(基準)	330㎡	100㎡
建物構造(基準)	鉄筋コンクリート造	鉄筋コンクリート造
建物面積(基準)	約100㎡	約35㎡
工 作 物	ホース乾燥台	

【第88表】消防団機材等の配置

(令和6年4月1日現在)

区 分	門 司	小倉北	小倉南	若 松	八幡東	八幡西	戸 畑	洞海湾	計
分 団 本 部	11	9	14	7	7	12	5	4	69
分 団 支 部	7	1	13	5	2	2			30
車 両	指 揮 車	1	1	1	1	1	1	1	8
	ポ ン プ 車	11	8	14	7	7	12	5	64
	小型動力ポンプ積載車	7		13	5	2	2		29
	自 走 式 搬 送 車		2						2
そ の 他	消 防 艇							(8)	(8)
	携 帯 無 線 機	12	11	15	8	8	13	6	73
	無 線 受 令 機	19	9	28	13	10	15	6	101
ト ラ ン シ ー バ ー	217	151	298	145	127	202	85	10	1,235
発 動 式 発 電 機	25	10	29	14	13	23	6		120
投 光 器	27	16	22	12	25	24	6		132
メ ガ ホ ン	21	14	37	4	11	14	10	1	112
強 力 ラ イ ト	71	48	109	53	42	67	28	3	421
警 戒 ロ ー プ	24	22	33	8	15	19	10		131
担 架	33	20	46	14	22	33	10		178
ス コ ッ プ ( 角 )	39	14	35	21	24	28	17		178
ス コ ッ プ ( 剣 )	107	93	232	33	37	131	42		675
つ る は し	15	15	23	13	7	27	7		107
が ん づ め	47	23	71	0	8	64	20		233
ベ ン チ	13	13	17	8	8	37	6		102
金 槌	29	16	42	13	14	37	8		159
掛 矢	29	20	41	13	14	38	11		166
鎌	67	40	88	21	33	64	22		335
鋸	31	21	24	7	3	37	10		133
救 命 胴 衣	194	144	377	138	184	220	85	70	1,412
可 搬 式 散 水 器	67	24	48	44	27	43			253
鉈	17	18	28	10	6	31			110
リ ュ ッ ク サ ッ ク	28	18	48	7	0	6			107
水 筒	50	33	56	23	5	33			200
防 塵 メ ガ ネ	212	140	148	160	134	183	28		1,005
防 塵 マ ス ク	221	203	345	160	138	209	125		1,401
蛍 光 チ ョ ッ キ	49	36	67	40	30	58	27		307
合 図 灯	56	31	96	35	41	61	27		347
40mm ホ ー ス	88	44	94	61	70	88	45		490
50mm ホ ー ス	269	100	301	129	150	215	52		1,216
65mm ホ ー ス	503	268	646	289	286	460	131		2,583
万 能 斧	18	9	25	13	8	17	6		96
ワ イ ヤ ー ロ ー プ	4	6	12	7	1	13	6		49
チ ェ ー ソ ー	15	11	20	7	8	21	5		87

(注)1 可搬式散水器・なた・リュックサック・水筒は、管内に山林を擁する分団に配置

2 消防艇の( )内は、民間艇

(2) 消防団の活動等

【第89表】消防団員の教育・訓練等実施状況

(令和5年度)

区分	項目	対象者	期間等	人数等	内容
消防学校	消防大学校消防団長科	副団長以上	5日間	1	消防団の上級幹部として必要な知識や技術を総合的に習得させ、資質の向上を図る
	県消防学校指揮幹部科 分団指揮課程	分団長 副分団長	年1回	7	分団長又は副分団長として必要な知識・技術の習得
	県消防学校指揮幹部科 現場指揮課程	部長	2日間	6	部長として必要な知識・技術の習得
	県消防学校初級幹部科	部長・班長	2日間	7	指導者として必要な知識・技術の習得
	消防操法研修	未修了の者	2日間	7分団	消防ポンプ操法に関する知識の習得
消防局	初任科研修	団員	年1回	94	団員として必要な基礎知識・技術の習得
	幹部科研修	班長以上	年1回	73	幹部として必要な知識・技術の習得
	女性消防団員研修	女性消防団員	年1回	74	防火・防災に関する各種訓練
	応急手当普及員講習	団員	3日間	53	応急手当普及員の資格取得
	署・団連携消防活動 実戦訓練	指定分団	平日夜間	全分団	建物密集地での火災を想定した実戦訓練
	後期警防技術錬成会	指定分団	年1回	7分団	建物火災を想定した実戦訓練
各署・各団	警防技術訓練	全消防団員	随時	全消防団員	消防団員として必要な警防技術の習得
	機関員訓練	機関員及び 機関員補助者	随時	300人程度	機関員として必要な技術の習得
	人権研修	全消防団員	年2回	全消防団員	人権研修等
	安全運転管理者研修	副団長	年1回	7	安全運転管理者講習
	他都市視察研修	分団長以上	年1回	69	他都市の消防団運営状況視察
	年間計画に基づく訓練	全消防団員	随時	全消防団員	各消防団で計画を立て規律訓練、放水訓練等を実施
市消防協会	消防協会研修	全消防団員	年1回	131	消防協会主催による消防団員研修
	他都市視察研修	消防団長	年1回	8	他都市の消防団情勢の視察
その他	定期健康診断	農業・漁業等 自営業者	年1回	332	消防団員の健康管理と疾病による公務災害の未然防止を図る

【第90表】消防団に対する表彰

(令和5年度)

表 彰 区 分	内 容	計
叙 勲	瑞 宝 単 光 章	4人
	瑞 宝 双 光 章	1人
北九州市長表彰	優良表彰（退職消防団員）	31人
福岡県知事表彰	永年勤続	46人
消防長表彰	優良表彰	11人
消防団長表彰	優良表彰	25人
福岡県消防協会会長表彰	優良消防団（表彰旗）	1団
	優良消防分団（竿頭綬）	6分団
	優良消防団員	63人
	永年勤続 45年以上	1人
	永年勤続 40年以上	1人
	永年勤続 35年以上	11人
	永年勤続 30年以上	14人
	永年勤続 25年以上	29人
	永年勤続 20年以上	44人
	永年勤続 15年以上	52人
	永年勤続 10年以上	70人
	親子・兄弟消防団員	8組
北九州市消防協会会長表彰	優良団員	41人
	優良団員（ポンプ操法出場者）	56人
消防庁長官表彰	永年勤続功労章	9人
日本消防協会会長表彰	功 績 章	3人
	精 績 章	4人
	勤 続 章	16人
合 計	1 団・6 分団・8 組・532 人	

【第91表】消防団員の活動実績

(令和5年度)

項 目	合 計	災害活動	年末警戒・祭礼等警戒活動	訓練・研修・予防広報活動
延べ出動人員	21,651人	2,713人	4,122人	14,816人
消防団員1人当たりの出動回数	12.6回	1.6回	2.4回	8.6回

(注) 「消防団員1人当たりの出動回数」は、令和5年4月1日現在の現員（1,720人）を用いて算出

【第92表】消防団員の公務災害発生状況

(令和5年度)

区 分	計	門 司	小 倉 北	小 倉 南	若 松	八 幡 東	八 幡 西	戸 畑	洞 海 湾
計	4	2	0	1	0	0	0	1	0
災害現場	0								
警防訓練	2	1						1	
その他	2	1		1					

(3) 女性消防団員の取組み

消防団の活性化を図り、地域と密着した親しみのある消防団を目指すため、昭和63年度から5か年計画で女性消防団員128人を採用しました。また、活動業務のさらなる充実を図るため、平成12年度から増員を図り、平成17年度には定員を154人としています。

【第93表】女性消防団員の現員

(令和6年4月1日現在)

所属	計	門司	小倉北	小倉南	若松	八幡東	八幡西	戸畑	洞海湾
人員	139	24	15	28	15	16	24	16	1

【第94表】女性消防団員の活動実績

(令和5年度)

種別	計	研修	訓練演習	年末警戒 祭礼警戒	予防広報	いきいき安心訪問
回数	636回	162回	56回	11回	28回	379回
延べ活動人員	2,431人	949人	462人	71人	190人	759人

(4) 関係団体

【第95表】北九州市消防協会

(令和6年4月1日現在)

区 分	内 容
設 立	昭和39年7月1日
目 的	北九州市8団の緊密な連携のもと、消防団活動の円滑な運営を行うため、消防の知識・技術の向上と調査研究、消防諸施設の改善、福利厚生の実施等により、消防力の強化を図るとともに消防思想を普及し、もって市民の災厄を防除し公共の福祉の増進に寄与すること。
会 員	消防団員
名 誉 会 員	本会のため功労顕著な者及び学識経験者
賛 助 会 員	本会の趣旨を賛同し金品等を寄与した者
役 員	会長1人、副会長1人、常任理事8人（正副会長を含む） 共済委員16人（事務局長及び監事を含む）、監事2人、事務局長1人、代議員7人
経 費	北九州市補助金（協会事業費は全額補助金、共済事業費は会員会費及び補助金）